

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

分担研究報告書

関節症状を有するベーチェット病患者の多施設後向き症例集積調査

○研究協力者 東野俊洋 北里大学医学部膠原病・感染内科学 講師

研究分担者 田中良哉 産業医科大学医学部第1内科学講座 教授（関節分科会 会長）

研究分担者 土橋浩章 香川大学血液・免疫・呼吸器内科 准教授

研究協力者 岸本暢将 杏林大学腎臓・リウマチ内科 准教授

研究分担者 永渕裕子 聖マリアンナ医科大学リウマチ内科 講師

研究分担者 桐野洋平 横浜市立大学病態免疫制御内科学 講師

研究代表者 岳野光洋 日本医科大学リウマチ膠原病内科 准教授

研究協力者 花見健太郎 産業医科大学医学部第1内科学講座 講師

研究要旨

ベーチェット病患者の約30～60%に関節症状が出現すると報告されているが、その特徴は再発性で大関節を中心として変形やびらんを伴わないとされている一方で、30%近くにRAに類似した手の所見を認めるとの報告や2%程度の症例では破壊性関節炎が認められるとの報告もあり、X線検査による関節の評価は必要と考えられている。ベーチェット病の関節症状に対し、コルヒチン、NSAIDsの有効性が報告されているが、ベーチェット病は発作と寛解を繰り返す疾患であり、関節症状の急性期に対する治療と発作予防という2つの観点からのエビデンスは乏しい。本研究では、ベーチェット病の関節病変の臨床像を明らかにし、ベーチェット病の関節症状の急性期の治療と関節症状予防の治療という観点から関節症状の治療を整理することを目的とし、本邦における実態調査を行った。

A. 研究目的

ベーチェット病の関節症状の治療指針を策定することを目的とした。

B. 研究方法

インフリキシマブがベーチェット病の眼病変に対して保険適用となった2007年以降に、当研究班に属する施設（帝京大学医学部附属病院、東京医科大学附属病院、産業医科大学附属病院、聖マリアンナ医科大学附属病院、横浜市立大学医学部附属病院、日本医科大学附属病院、北里大学病院）とその関連施設において入院または外来治療を行ったベーチェット病患者で関節

症状を呈したのものについてアンケート調査を行い、匿名化した後に収集した。集まった調査票を基にして、ベーチェット病の関節症状出現部位、関節症状の特徴、X線変化の特徴、再発に特異的なパラメーターの抽出、急性期治療の薬剤選択や使用量等に関して解析を行った。

（倫理面への配慮）

当院倫理審査室にて承認

C. 研究結果

集積された151例の検討の結果、罹患関節は膝関節、足関節、手関節、肘関節、肩関

節、PIP 関節の順に多く出現した。関節の X 線撮影が行われた 293 関節中 18 関節で裂隙の狭小化や変形を認めた。急性期治療としてはステロイド投与が行われた 84.0%に改善を認めたが、PSL 換算 10mg/日以下で改善率が低かった。関節症状の再燃は PSL 治療群よりもコルヒチンや MTX の使用されている群で有意に少ない傾向が認められた。

#### D 考察

ベーチェット病の関節症状は一定の割合で裂隙の狭小化や関節変形を伴うことが確認され、発作の繰り返しによる関節病変の進行を抑制する治療の重要性が示唆された。また、急性期治療には一定以上の用量のステロイド投与が必要である可能性が示唆された。

#### E. 結論

ベーチェット病の関節症状の急性期治療にプレドニゾロン換算で 10 mg以上のステロイドは有効である。また、コルヒチンと MTX は関節症状再発予防に効果を有する。

#### F. 研究発表

##### 1) 国内

口頭発表 0 件  
 原著論文による発表 0 件  
 それ以外（レビュー等）の発表 1 件

##### 1. 論文発表

原著論文

なし

著書・総説

1. 東野俊洋. ベーチェット病の関節病変【ベーチェット病-基礎と臨床の最新知見-】診断と治療 日本臨牀 79(6), 2021

##### 2. 学会発表

なし

##### 2) 海外

口頭発表 0 件  
 原著論文による発表 1 件  
 それ以外（レビュー等）の発表 0 件

#### 1.論文発表

原著論文

1. Tono T, Kikuchi H, Sawada T, Takeno M, Nagafuchi H, Kirino Y, Tanaka Y, Yamaoka K, Hirohata S. Clinical Features of Behçet's Disease Patients with Joint Symptoms in Japan: A National Multicenter Study. Mod Rheumatol. Online ahead of print.

著書・総説

1. なし

#### 2. 学会発表

1. なし

#### G. 知的財産権の出願、登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし